

(2012年度山西大学奨学生レポート10月)

## 篮球比赛 (バスケの試合)

吉田 想陶

だんだんと寒さも厳しくなり冬が近づいてきているのを感じます。太原ではすでに最低気温がマイナスを超える日もあり、日本に比べると非常に寒いです。

10月1日から7日まで、国慶節(建国記念日)と呼ばれる大型連休がありました。国慶節とは中国の決定休日の一つで、今年は9月30日の中秋節と重なり8日間連続の休暇となりました。中国ではこの中秋節に月餅(げっぺい)と呼ばれる満月をかたどった円形のお菓子を食べる習慣があるそうで、月餅には、離れ離れになった親子や夫婦が再会するという意味を持つ「团员」という言葉が込められており、家族の円満を象徴していると中国の友人から教えてもらいました。日本に居た頃は、行事や習慣に込められている意味など深く意識したことがなかったので、今後も一つ一つの行事を迎えるたびに、そういったところにも目を向けていきたいです。

10月の半ば頃に「第三十二届 希望杯 篮球联赛」というバスケットボールの大会が山西大学で開かれました。この大会は各学院対抗での試合となり、私たち留学生が所属する国際教育交流学院も参加しました。各学院それぞれが太鼓や応援旗を用意し、多くの学生が一生懸命応援している姿がとても印象的で、学生の団結力に驚かされました。スポーツを通じて多くの学生と交流できたことは、まだ中国語で円滑にコミュニケーションがとれない私にとって、とても貴重な体験でした。私たちのチームは予選リーグを突破することが出来ず、敗退してしまいましたが、この大会をきっかけに知り合った学生とは、その後も何度かバスケットボールを通じて交流を深めています。改めてスポーツには言葉が通じなくてもお互いに通じ合える力があると感じました。



バスケットボールの試合  
(赤いユニフォームが国際教育交流学院)



バスケットボールの試合  
(コートの上ではたくさんの学生が応援している)